

道教大附属4校園が合同避難訓練 素早い行動が命助ける 特支在校生思いやり先導

【函館発】道教教育大学附属4校園合同避難訓練が10月中旬に行われた。今回初めて、地震に伴う火災を想定し、各校舎敷地内と中学校グラウンドの2段階に分

けて避難。附属函館中学校の改修工事によって特別支援学校から避難した中学2年生は、訓練を共にした特別支援学校在校生を思いやり「2年生が先導して素早く行動したい」と共助の姿勢を身に付けた。

道教教育大附属函館中学校、附属函館小学校、附属特別支援学校、附属函館幼稚園は、4年度から合同避難訓練を開始。備蓄庫での災害用物資の受け取りや保護者への引き渡しなど、有事の際に備えてあらゆる訓練を重ねてきた。

前年度の避難訓練では、園児および小中学生は中学校グラウンド、特別支援学校グラウンドを避難場所に指定。本年度は、各校園敷地内で地震対応の一時避難、

中学校グラウンドで火災対応の避難と、二次災害を想定した段階的な訓練を実施した。

地震発生の際に放送が流れると、一斉に机の下に潜り、児童生徒は机の横に常備している折り畳み式ヘルメットを身に著け、園児は教員のサポートを受けながら防災頭巾をかぶり、避難準備を整えた。

一時避難では各校園で教職員が残留者の確認や被害状況の報告に徹した。中学校では二次災害の状況を生徒たちに聞こえる音量で伝え合い、災害や避難に対する生徒たちの意識を高めた。

火災が発生した場合、備蓄庫がある中学校グラウンドが各校園の要塞となり得ることから、続けて同所へ

の避難を実施。雪裏。全員の素早くも落ち着いた行動を心がけ、地震発生からの全行程を5分30秒で終えた。

中学校の改修工事に伴い、中学2年生は特別支援



学校の校舎を間借りし、他学年と離れて過ごしている。今回の訓練では、中学校2年生が特別支援学校の在校生や教職員と避難を共にした。

探究活動で防災に関する学習を進めている美馬空門さん（中学2年）は「防災について調べた中で、素早い行動が多くの命を助けることを学んだ。協力して一つでも多くの命を救うために、合同避難訓練は大切」と実感したという。特別支援学校在校生との避難に対しては「突然のことに怖くてもおびえる子もいると思う。2年生が先導して素早く行動したい」と避難行動への考えを深めた。